

# 港北区災害ボランティア連絡会ニュース

事務局 〒222-0032 横浜市港北区大豆戸 13-1 吉田ビル 206 港北区社会福祉協議会

第 18 号

TEL 045-547-2324 FAX045-531-9561 E-mail info@kouhoku-saibora.net

2014年3月

HP <http://www.kouhoku-saibora.net>

入会は随時受け付けています。あなたの町の防災度を高めるにお力を貸して下さい。

## 3回目の3月11日を考える 地震を「震災」にしてはいけない

衝撃の2011年3月11日から3年が経ちます。「復興」の声はかかれど、現地の3年前と今との違いは「ガレキ」が片付いただけで、更地が広がる風景は変わりません。行き交う車の多くは大型工事車両ですが、工事が進んでいる印象を持たせないのは津波の被害にあった土地をかさ上げする大工事がなかなか進まず、その結果住宅建設がほとんど進んでいないからでしょう。まだ街が見えないのです。

犠牲となった方々のご冥福を祈るとともに、先の見えない生活を強いられている方々へ思いを寄せながら、この悲劇から私たちは何を学ばなければならないのかを考えたいと思います。

### ■未曾有の被害

今回の死者、行方不明者は2015年2月段階で13520名です。しかし過去300年で1万人以上の死亡者が出た地震は6回(50年平均)、千人以上の死者行方不明者が出たものは23回(13年平均)となっています。だとすれば、簡単に「未曾有」と言ってしまうて良いものだろうか、との疑問を持つことが次ぎに来る災害に備える基本姿勢となるのでしょうか。

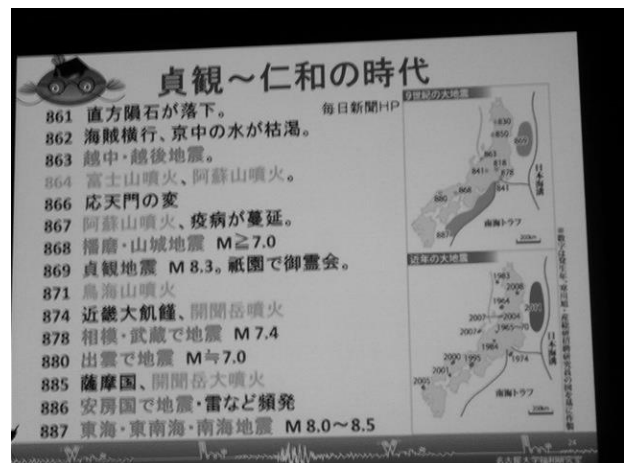
### ■想定外

宮城県沖では今後30年に起きる地震の確立は99%と言われていました。これはM7.5クラスの予測ですが、それなりに備えをしていたひとは多くいました。M9はだから想定外かと言えば貞観地震の事を知っていた専門家はいた訳です。また想定とは現在の科学で考えられる予想でしかないという限界があります。その限界をきちんと教わり、実践したのが釜石の子どもたちです。逆に過去の教訓のための津波碑を無視してしまったことは大いに反省しなければならないでしょう。それが震災被害を大きくしたのですから。

### ■過去から学ぶ

この二つは災害大国日本の過去をきちんと学ぶことがどれだけ大切かを教えています。しかしマスコミを通して氾濫したこれらの言葉はあたかも史上初めての大被害が発生したかのような、どこかあきらめを強要するような響きを感じさせます。そうではなく、忘れやすい私たち自身を反省しなければいけません。

地震は防げませんが地震による災害被害(震災)は小さくできるのです。



(名古屋大学福和教授資料)

### ■災後

「戦後」と言えばその意味はすぐ分かります。しかし一時使われたこの「災後」が定着していないことは、私たちがどのような社会を目指すのか、何を大事に生きて行こうと思うのかを論議しなかった事をあらわしているのではないのでしょうか。遠くはなれた横浜でも物不足になり、帰宅できなくなり、計画停電がありと考えるきっかけはありました。原発事故も含めて今回の災害から新しい価値観を探す事をしないといけないのではないのでしょうか。

### ■減災社会

神奈川県で予想される地震被害では避難所に入りきれない、仮設住宅を建てる場所がたりないなど、今までとは全く違う形の被災生活が予想されます。災害を考える私たちの最大の課題はどれだけ減災対策を実行できるかです。災害ボランティアセンター運営とは被害の後追い作業です。一歩先んじなければなりません。

(編集部 宇田川)

## 第10回定例会報告

平成26年2月19日(水) AM10:00~

港北区福祉保健活動拠点多目的研修室

出席者：井上会長(港北区ボラ連)、白井副会長(個人)、富士塚ボランティアグループ、YMCA、国際救急法研究所、港北区地域子育て支援拠点どろっふ、手話サークル梅の会、国際交流ラウンジ、一般社団法人ペガサス、港北区ボラ連、仲手原マザークラブ、個人6、事務局片桐、山本、(区社協)

司会=白井副会長、記録=和田 計19名

### (1) セミナーの報告(イベントタスク)

◇2月1日セミナーアンケート集計

○講演にはメリハリがあつてとても良かった。

○七ヶ浜2万人の人口に7万人のボランティアが集まった凄いことです。

○いざ、という時には若いパワーの協力。

○日頃のコミュニケーションが大事。

他港北災害ボランティア連絡会のパンフレットを送られても良いとの方が沢山いた。

災ボラ連絡会員の感想

◇拠点の運営に携わっている方々を呼んで災ボラを知ってもらおう。

◇日頃訓練したコーディネーターが当日被災された方が多かった、港北災ボラはもっと深く考える必要がある。

◇知的障害者等の受け入れ、拠点での細やかな配慮が必要。

日頃の付き合いが大事

外からの力と中の人たちの動ける力→受援力

◇図上訓練等各自自治体でいろいろと取り組んでいる。障害者を受け入れる具体的な話がない。

◇大雪の時地域の方々に声掛けするが耳を傾けてもらえなかった。災害は地震だけではない。

### (2) ボランティア保険について

ボランティア保険は3月末までに入り、4月より使用できます(天災付A) 団体関係で変更される方は早めに申し込み下さい。

### (3) その他

#### ●会計より報告

ライフラインがストップした場合の事を考えカセットコンロ方式の発電機1台購入予定。

#### ●ブロック別会議の報告

Dブロック(青葉区、緑区、都筑区、港北区)

2月17日情報供用の意見交換

参加者 山添(YMCA)、宇田川(国際救急法研究所)、山本(社協)

年3回の定例会(2月、6月、10月)

#### ●社協からのお知らせ

3月9日釜石フェスティバル綾瀬市文化会館にて「遺体」上映

※2月より災害ボランティア連絡会に新しい会員になられた方の紹介

一般社団法人ペガサス木村志義様 精神障害・発達障害会社を富士塚に開設

「日々不安だったがセミナーに参加してすぐ災ボラに登録しました、隣近所の連携が大事これから勉強していきます」

## 各タスク今年度活動と反省

### ■シミュレーションタスク

昨年度の反省を踏まえ元禄型関東地震規模の地震から1週間経過時点という想定で定常状態にあるボランティアセンターの運営をシミュレートすることとしました。

さらに被災者・ボランティア対応に特化して、ニーズの聞き取り、受付・登録、マッチング手順の改善、帳票の簡素化を目指しました。本部、情報の機能については省略いたしました。

考えなくてはならない事が多く、タスクの打ち合わせは定例会以外に10回行いました。その中で、

- ・受付は初めての方と2回目以降の方を分ける、
  - ・マッチングは付箋方式から手上げ方式に改める、
  - ・ボランティア依頼カード、ボランティア求人票は廃止する、
  - ・ボランティア送付カード、活動指示カード、活動報告書は活動指示書兼報告書に集約する
- などが決まりました。

参加者はやや少なかったのですが一般の方は若い方も多く、防災についての意識も高く内容のあるシミュレーションができました。

ニーズの聞き取りは思った以上にむずかしい、送り出しの仕事の重要性、初めてのボランティアの不安を取り除く必要がある、という意見などがありました

ボランティアセンター運営上の改善点ではニーズ受付票の記入がむずかしい、活動指示書兼報告書に現場への行き方をくわしく、個人ボランティア名簿で先に記入した人の情報が見える、ニーズを聞き出すのは難しい、ボランティア登録簿は列に並んでいる時に書いてはどうか、チーム編成は経験者と初心者を混ぜると良い、ボランティアセンター内でのボランティアの心構え、服装、

おおまかな流れを図示して掲示すると良い、など多数の貴重なご意見をいただきました。

今後はそれらのご意見を踏まえてハンドブックを改訂しますが、今年度省略した本部、情報担当の作業詳細についても検討する必要があります。そのために区役所や地域防災拠点などと連携した本部・情報機能のシミュレーションをぜひ実施したいと思えます。

## ■イベントチームタスク

### 1) 浦安市災害対策件月ツアー (9月)

大型バスが満員になるほどで、同じ都市型災害への関心の高さが伺えました。行政からは実際の被害報告、社協からは災害ボランティアセンターの活動状況の説明をしていただきました。NPO法人i-net (子育て支援) の、子育て中の家庭が被災後の浦安でどんな思いでどう過ごしたのか、当事者ならではの報告があり、妊婦・子育て家庭を災害弱者としてとらえていかなければならないことをあらためて痛感しました。

### 2) 災害ボランティアコーディネーター養成講座 (10月5日)

阪神大震災をはじめ被災地でのボランティアリーダーを努められた日本赤十字社の高森氏を講師にお招きして、ボランティア論についてお話を伺うほか、グループワークなどを通して意見交換を行いました。講師の信念ともいえる「コーディネーターとしての4つの心構え」

#### ①日々の備え (Be Prepared)

#### ②信仰を持つこと (寄って立つもの・芯を創る)

#### ③自分自身へのつとめ (体力・余力・知識)

#### ④他者へのつとめ (人が好きでないと続かない)

は、多くのリーダー養成に努めてこられた講師だからこそこのキーワードだなど、参加者一同、感銘を受けました。

### 3) 災害ボランティアセミナー (2月1日)

宮城県七ヶ浜社協職員星氏を講師に招き、発災後から現在に至るまでのボランティアセンター立ち上げから運営に関するお話があり、会場全員「現場感」をひしひしと感ずることとなりました。パネルディスカッションでは、区内で様々な活動に携わっている方達が、それぞれの立場での意見交換を行いました。実際に被災地で活動された講演を受けてだったので、とても白熱した内容となりました。

3回の企画を通して、区内各地域のいろいろな立場の方が「災害ボランティア」に関してとても関心が高いからこそ、毎回多くの参加があったの

ではないか、と改めて気づきました。来年度はシミュレーションとの連携も視野に置いて、区民のニーズにあう企画をする一方で、関係諸機関、地域、町会等への周知に務めていきたいと思えます。

## ■PRタスク

### 1) ニュースについて

- ・自宅での減災については何度でも取り上げるべきでしょう。(耐震診断・改修、家具転倒防止)
- ・2013年9月号の「想定される地震で港北区はこうなる」は、関心が高かった。
- ・各地域への回覧板で各世帯に届けたい
- ・「町内会長に聞く」「学校長に聞く」など地域防災拠点の声を載せる。

### 2) HPについて

- ・ロゴの作成、更新者の複数化
- ・更新時に全員にメールでのお知らせ配信
- ・FBページの開設
- ・イベント時のtwitterでの小まめな発信不足
- ・スタイルについて検討の余地有り。字ばかりで関心を引きにくい。

### 3) PRボード

- ・地図への町の区切り線や町名を入れる作業が必要

### 4) 加入申込書

- ・カラー版の印刷
- ・例会時に会員に配布しておく。
- ・会の行事の際は必ず配る

### 5) 広報対象

- ・来年度は港北区内の9箇所のケアプラザで、広報活動を行ってはどうか
- ・区内の学校と連携したい
- ・参加しているいくつかのボランティアグループの会合で将来的に災ボラの会員になってもらうことを考えてニュースを配布する。
- ・高田地区大運動会、新田地区センター文化祭、よこはま消防出初式、かながわ・よこはま防災ギャザリングに参加

### 6) その他

- ・港北区災ボラとしての名刺を印刷する

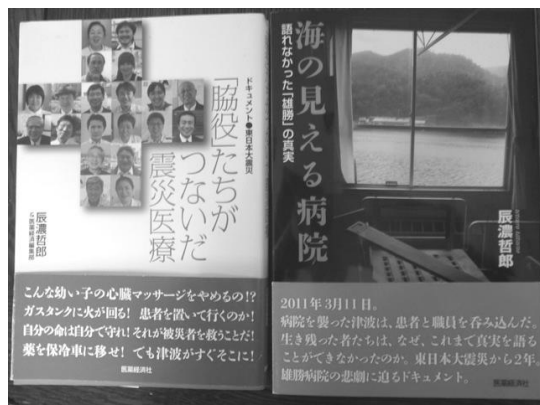
(津波碑 気仙沼)



## 役に立つ災害本

### 海に見える病院 語れなかった「雄勝」の真実 「脇役」たちがつないだ震災医療

共に辰濃哲郎著 医薬経済社刊



災害時だからこそ逃げる事無く現場に向かわなければならない人々がいる。今回の災害で多くの消防団員が犠牲になったのもその一例だ。また何処にいたかも生死を分けた。津波から逃げるには高さだから。

石巻市立雄勝病院は入り組んだ雄勝湾を目前にした立地である。あの日プロとしての立場を忘れずに患者に寄り添い命を亡くした人々がいる。亡くなった方も悔しいだろうし、残された家族も辛い。その有様が一人一人の物語として綴られている。そこから見えて来るのは災害で命を取られる理不尽さへの身をよじるような悲しみだ。

「脇役・・・」では被災しながら病院機能を維持するために最大限の努力をした関係者の姿がある。災害医療は医師を主人公に語られることが多いが、裏方がそれぞれのプロ意識を持って奮闘した結果災害医療がやっと成り立った事実を知らせてくれる。石巻赤十字病院で医師からわざわざ「このたびはしっかりと薬を供給してくださって本当にありがとうございます」と言われた薬品卸の社員がいる。それぞれの役割を認識している医師の姿も、それに対し深々と礼をする社員の姿も美しい。

しかしここで読み取れるのは災害時の組織の支え方でもある。災害ボラセンもひとが集まるだけでは動かない。金と物が必要だ。その中にはボラセンスタッフへの食事の供給計画も無ければならない。

この本は双方とも医療者を読者に想定して書かれたものだが、重要施設の立地や組織を支える裏方への配慮など普遍的かつ重要な課題が読み取れる本である。(宇田川)

## 横浜消防出初め式 2014

2014年1月12日(日)、横浜消防出初式が赤レンガ倉庫イベント広場・赤レンガパークで開催されました。ほとんどの来場者は、消防演技やはしご車などの訓練の様子・一斉放水など普段見られないイベントを楽しみにいらっしやっただのではないのでしょうか。

市ネットの要請で「みんなでつくるヨコハマ防災マップワークショップ」コーナーの鶴見区、神奈川区、港北区のチームへ参加しました。18区を3区ずつ区切り、それと横浜市以外のチームの合計7地区のそれぞれ地図の上へ、来場された皆さんがお住まいの場所にカラーシールを貼って避難所を確認していただきました。皆さんからはゆっくりお話を伺うことは出来ませんでした。お住いになっている街の好きなところや、自慢したいことなどポストイットに書き出していただきました。又、普段不便に感じていることに加え、災害が起きた時に考えられる不安や心配に思っていることも書き出していただきました。

その結果を見てみると、公園など緑が多くある街では、駅へ行くバスなどの本数が少なく買物などに交通が不便であったり、街灯が少なく夜道が心配だったり、路地が狭く緊急車両も通れない、坂の上や坂の真下にお住いの方からは、土砂崩れの心配の声があがっていました。

又、若い方、まだお子さんが小さな方、マンションにお住いになっている方の中には、避難所と広域避難所が一緒のものと思われる方が多くいました。

クイズラリーの中のワークショップですが、来場された方々には、防災・減災を再確認していただけたのではないかと思います。(付岡)

### 編集後記

- ☆ 3月11日の衝撃を忘れることなく、日々の暮らしを少しずつ変えていきたいと思っています。(宇)
- ☆ 東日本大震災から3年経ちました。あの時あせって備蓄資料を買い込んだ方、賞味期限の確認をしましょう(山本)
- ☆ 1年ぶりに宮城県山元町を訪れました。特産の苺がとても美味しく、口に含む甘く、春の訪れを感じました。間もなく3回目の春です。(山口)
- ☆ 今の会社には備蓄も防災道具も揃っていましたが、でも防災・減災の啓蒙活動は続けていきたい(野)